

平成20年度事業報告

自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日

・展覧会

1. 第36回「日本の書展」直轄展

(1) 関西展

会 期 平成20年5月29日(木)～6月1日(日)
会 場 大阪国際会議場(3階イベントホール)
主 催 (財)全国書美術振興会 産経新聞大阪本社
後 援 文化庁
協 賛 (社)日本書芸院

関西展の出品数は、巨匠21点、代表82点、委嘱41点、招待364点、秀抜選818点、合計1,326点、会期中の入場者数は5,562名だった。産経新聞社の紙面協力も得て、第36回展の立ち上がり会場として質量共に充実している。

会期初日の5月29日(木)12時30分から、リーガロイヤルホテル3階「光琳の間」において、開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者・招待者合わせて510名の出席があった。

レセプションでは、当会犬養康彦会長、続いて津金孝邦理事長から主催者代表挨拶、産経新聞大阪本社大阪代表補佐・総務局長 八木諠信氏から共催者挨拶があった後、当会の榎倉香邨顧問の書家代表挨拶へと続き、高木聖鶴名誉顧問の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、14時に栗原蘆水常務理事の閉会挨拶によって終了した。

(2) 中部展

第1会場

会 期 平成20年6月4日(水)～6月8日(日)
会 場 愛知県美術館ギャラリー(愛知芸術文化センター8階)

第2会場

会 期 平成20年6月3日(火)～6月8日(日)
会 場 名古屋市博物館(3階ギャラリー)

主 催 (財)全国書美術振興会 中日新聞社
後 援 文化庁 愛知県 岐阜県 三重県 名古屋市 各県市教育委員会
東海テレビ放送
協 賛 (社)中部日本書道会

中部展の出品数は、巨匠21点、代表82点、委嘱13点、招待132点、秀抜選723点、合計971点、会期中の入場者数は2会場合わせて7,178名だった。これは、中日新聞社の紙面ならびに東海テレビ放送の放映の協力が大きいと思われる。

前回展からの展示数の大幅な増加により、今展も2会場開催とした。例年使用の愛知県美術館ギャラリーが第1会場、以前「日本の女流書展」で使用していた名古屋市博物館が第2会場となった。

6月4日(水)17時から、名古屋東急ホテル3階ヴェルサイユの間において、開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者合わせて338名の出席があった。

レセプションでは、当会犬養康彦会長、続いて津金孝邦理事長から主催者代表挨拶、中日新聞社取締役顧問 小山勇氏から共催者挨拶があった後、当会の黒野清宇顧問の書家代表挨拶へと続き、樽本樹邨理事の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、18時30分に終了した。

(3)東京展

会 期 平成20年6月12日(木)～6月22日(日) 17日(火)は休館日

会 場 国立新美術館

主 催 (財)全国書美術振興会 (株)共同通信社

後 援 文化庁

東京展の出品数は、巨匠21点、代表82点、委嘱30点、招待558点、秀抜選1,082点、東京展合計1,773点、他展の委嘱(関西展委嘱41点・中部展委嘱13点・九州展委嘱12点)も加わり、総展示数1,839点で当会としては最大の展示数となった。

会期中の入場者数は12,788名だった。前回は国立新美術館での開催が初回であったことと、隣接する企画展がモネ展であったことの相乗効果で約18,000名の入場者があり、今回それには及ばなかったが、それでも、会期中終始入場者が途切れることはなかった。

また、「日本の書展」の特別展観として、5月24日(土)～7月21日(月・祝)大倉集古館において『東大寺御宝・昭和大納経展』が併催された。その開催を記念し、6月12日(木)11時から、ホテルオークラ東京別館地下2階「アスコットホール」において、記念講演会を開催した。講師は宝物、昭和納経の所蔵先でもある東大寺から華嚴宗管長・第二一九世東大寺別当の上野道善猊下を招き、「東大寺と華嚴経」と題して約1時間の講演を行い、約450名が聴講した。

記念講演会に続き、12時30分から、ホテルオークラ東京本館1階「平安の間」において開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者・招待者合わせて722名の出席があった。レセプションでは、当会犬養康彦会長、続いて津金孝邦理事長から主催者代表挨拶、(株)共同通信社代表取締役専務 坂田茂氏から共催者挨拶があった後、講演会講師の上野道善猊下から来賓代表の挨拶を頂いた。

続いて、当会の梅原清山顧問の書家代表挨拶へと続き、前在フランス日本国特命全権大使 平林博氏の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、14時に終了した。

(4)九州展

会 期 平成20年7月1日(火)～7月6日(日)

会 場 福岡県立美術館

主 催 (財)全国書美術振興会 西日本新聞社

後 援 文化庁

九州展の出品数は、巨匠21点、代表82点、委嘱12点、招待95点、秀拔選137点、合計347点、会期中の入場者数は1,552名だった。西日本新聞社の紙面協力を得ている。

会期初日の7月1日(火)12時30分から、ホテル日航福岡3階「都久志の間」において、開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者合わせて94名の出席があった。

レセプションでは、当会犬養康彦会長、続いて津金孝邦理事長から主催者代表挨拶、西日本新聞社執行役員・事業局長 小野博人氏から共催者挨拶があった後、当会の栗原蘆水常務理事の書家代表挨拶および発声により乾杯を行い、祝宴に入り、14時に終了した。

全展共通の今回からの試みとして、入場者数や客層を広げるため、現代書壇巨匠の出品作品をはがきにして来場記念品として1枚ずつ贈呈した。

合計贈呈枚数は約17,100枚。

2. 第36回「日本の書展」巡回展

現代書壇巨匠と現代書壇代表の103点については、関西展、中部展、東京展、九州展の直轄4展終了後、本会・共同通信社・各地元新聞社の共催、文化庁後援により、約1年間をかけて、地方8カ所を巡回する。

第36回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地		地元主催新聞社	会 場	会 期	地元作品数	入場者数
1	富山	富山市	北日本新聞社	富山県民会館美術館	20.7.10～7.13	208	1,367
2	鳥取	米子市	山陰中央新報社	米子市美術館	20.8.28～8.31	300	941
3	栃木	宇都宮市	下野新聞社	福田屋ショッピングモール宇都宮イターパーク店	20.9.3～9.8	276	3,444
4	広島	広島市	中国新聞企画開発	福屋広島駅前店	20.10.9～10.14	725	26,498
5	岡山	岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店 6階葦川会館	20.10.21～10.26	563	5,077
6	奈良	奈良市	奈良新聞社	奈良県文化会館	21.1.28～2.1	260	3,141
7	長野	長野市	信濃毎日新聞社	長野県信濃美術館	21.3.6～3.9	214	1,597
8	茨城	水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	21.4.18～4.23	291	2,773

3. 東大寺御宝・昭和大納経展

(1) 大阪展 「伝統と創意」08 日本書芸院展 特別展観 東大寺御宝・昭和大納経展

会 期 平成20年4月22日(火)～4月27日(日)
会 場 大阪国際会議場(3階特設会場)
主 催 (社)日本書芸院 読売新聞社 (財)全国書美術振興会
特別協力 華嚴宗大本山東大寺
協 力 大阪市立美術館
後 援 大阪府 大阪市 大阪府教育委員会 大阪市教育委員会
NHK大阪放送局 (財)大阪21世紀協会

(2) 東京展 「日本の書展」特別展観 東大寺御宝・昭和大納経展

会 期 平成20年5月24日(土)～7月21日(月・祝)
会 場 大倉集古館
主 催 (財)全国書美術振興会 (財)大倉文化財団・大倉集古館
共同通信社 (社)日本書芸院
特別協力 華嚴宗大本山東大寺
協 力 (株)ホテルオークラ東京 大成建設(株)

昭和55年、奈良・東大寺大仏殿の昭和大修理にあわせて奉納した「昭和大納経」大方廣佛華嚴経六十巻を、30年近い歳月を経て再び一般公開した。併せて、経巻を収めた経篋や、納経までの作業工程や落慶法要など当時の様子を写した写真パネル、更には東大寺の貴重な寺宝も十数点展示した。

また、大阪展・東京展とも、開催披露パーティーにあわせて、華嚴宗管長・第二一九世東大寺別当の上野道善猊下を招き、「東大寺と華嚴経」と題して、約1時間の記念講演会を開催、多数の聴講者があった。

・展覧会以外の特別企画

1. 在外公館作品寄贈

当会の設立目的の一つである『書美術の国際交流』の主旨を踏まえ、日本を代表する書作品を寄贈し、在外公館を通じて世界各国に日本の伝統文化を広め、相互理解推進に寄与しようとするものとして企画した。

外務省を通して世界中の在外公館に寄贈したものとしては、1986年(昭和61年)2月24日の寄贈(27名28点寄贈)以来となる。

現在、日本国の在外公館は213公館、そこに収められた書作品は約390点となっているが、在外公館における書の所有数は、絵画などに比べると非常に少なく不足している状況がある。

今回は、特に書の所有が全くない、又は少ない56カ国、62在外公館に、現代書壇巨匠・現代書壇代表・委嘱(当会役員で、日展委嘱または委嘱予定)の作品105点を寄贈することになった。

寄贈作家名、寄贈先在外公館名については、別紙参照。

2月中旬に105名の書家に作品を依頼、現在作品〆切をむかえたところだが、今後の予定として、第37回「日本の書展」開催時に合わせて作品を搬入、写真撮影、図録編集を経て、平成22年1～2月頃には外務省を通して寄贈手続きを完了する。

・機関誌および書美術に関する出版物等の刊行

1. 図録の制作

(1) 第36回「日本の書展」巡回展 (直轄展用)	5,400冊
(2) 第36回「日本の書展」関西展	1,700冊
(3) 第36回「日本の書展」中部展	1,300冊
(4) 第36回「日本の書展」東京展	2,600冊
(5) 第36回「日本の書展」九州展	700冊
(6) 第36回「日本の書展」巡回展 (地方展用)	1,400冊
(7) 東大寺御宝・昭和大納経展	2,000冊

2. 展覧会来場者配布用作品はがきの制作

全展共通の今回からの試みとして、現代書壇巨匠の出品作品をはがきにし、入場招待券を持参した来場者に1枚ずつ配布することによって、入場者数や客層を広げるなどの集客効果を上げた。

制作枚数は21,000枚、贈呈枚数は約17,100枚。

3. 機関誌「書美術」の刊行

会報「書美術」第25号を刊行、第37回「日本の書展」出品依頼者、文化庁関係者、外務省関係者、美術館関係者、日本芸術院会員、新聞社等に配布した。

刊行数は5,500枚。

4. ホームページの制作

「日本の書展」開催に合わせて、随時更新している。

<http://shobi.or.jp>

・書美術功労者の顕彰

日本芸術院会員になられた日比野光鳳顧問、日本芸術院賞を受賞された杭迫柏樹理事の功労を顕彰し、記念品を贈呈した。

以 上